

西要寺だより

第95号 令和2年2月20日

●新年会

1月11日(土) 12時より新年会を開催しました。今年は40名の参加者でした。開会、お勤め(讃仏偈)の後、昼食をとり、一段落したらアトラクション。今年は神戸の八重季会の方々による日本舞踊でした(右、下の写真)。その5つの演目では、優雅であったり、華やかであったり、凛々しかったりしました。新年会らしいアトラクションでした。また、恒例になっています木和田会長によるなぞなぞクイズがあったりと、非常に盛り上がり、楽しいひとときでした。



●お坊さんって、普通の髪型でもいいのですか？

一般の人から「お坊さんらしくないですね」ってたまに言われます。つまり、お坊さん=丸坊主、ということもあって、髪の毛を伸ばしている私はお坊さんらしくないんですって。浄土真宗本願寺派の研究所の後輩に、「これって坊主セクハラじゃない」、っていうと、「堀さん、怒っているのですか?」って。「いやいや、怒ってない!」と言うと、「かえってその人(一般の人)に仏教の話が出来るからいいじゃないですか」、って言われました。

浄土真宗の場合、得度の際は坊主頭にします。さらに、(習礼が終わった)得度式の時には(男性の場合)髪の毛を剃るのです。その後の髪型は自由な

のです。しかしながら、常識的に僧侶らしからぬ髪型は避けてもらいたいものです。一方、臨済宗や曹洞宗といった禅宗の僧侶は、きちんと剃髪して暮らしておられます。四と九のつく日に剃髪するという規範があるのです（これは、四九＝よく＝欲を断つ、ということから由来するなどと言われてます）。また、真言宗の場合は、修行時や、数年に一度の大事な儀式に剃髪します。剃髪する理由は、こだわりを捨てたことをかたちで表すためです。実は、剃髪姿はお坊さんに限ったものではありません。江戸時代にはお医者さんも剃髪していたようですし、文化人や世捨て人などにも坊主頭で暮らす人がいたようです。現在でも、僧侶ではない人でも剃髪しますよね。剃髪姿は、世俗社会と一線を画す象徴ともなるのです。仏僧が剃髪するようになったのも、そこが起源だと言われています。

●大阪城に行ってきました

すぐに行けるけれども、なかなか大阪城って行かないじゃないですか？ いやいや、よく行きますよ、と言われる方もおられると思いますが、私は何十数年（？）ぶりに大阪城に行ってきました。ある有名女優さんが大阪城を見て「やっぱりお寺っていいですね」と天然発言したことで話題になりましたが、実はもともと大阪城の地にはお寺があったのです。本願寺第8代宗主蓮如上人が明応5年（1496）に、生玉庄（いくたまのしょう）大坂に大坂坊舎を建立しました。「大坂」の地名が史料上に現れる初例は、蓮如上人が書かれた「御文章」と言われています（「大坂」という地名の名付け親と言われています）。その後、天文元年（1532）に六角氏と法華宗徒により山科本願寺が焼き討ちされるに及んで、本願寺教団の本拠である大坂（石山）本願寺に発展しました。石山本願寺周辺は、山科と同様に広大な寺内町が造営され、この造営が現在の大阪の街並みの原形になったと考えられています。その後、第11代宗主蓮如上人の時代に、織田信長との石山合戦によって、大坂（石山）本願寺を退去した本願寺教団は、鷺森（和歌山）、貝塚、天満を経て京都堀川に本拠を移転しました。一方、大坂（石山）本願寺跡には豊臣秀吉によって大坂城が建設されます。この時に、大規模な土木工事



により地形的にかなりの改造が加えられたと考えられています。さらに、大坂夏の陣の後、徳川氏によって大坂城が建設されるに際して、再び大規模な土木工事が行われました（以上の文章は、写真「石山本願寺推定地」の看板による）。

なお、下の写真は、蓮如上人御袈裟懸けの松の根ということです。大坂城の掲示板（案内板）を見ながらあちこちと歩きましたが、広いですね、いまさらですが…。



●大阪の御堂（別院）

それでは大阪の御堂はいつ頃、建立されたかという点、上記のように蓮如上人の頃ですが、石山合戦によりその大坂の御堂から退去した後、本山は和歌山鷲森から、和泉貝塚、大坂天満、そして京都へ移ったため、大坂の門徒は楼岸に坊舎を建立しました。慶長2年（1597）、坊舎を大坂津村へ移転し、翌年に准如宗主が赴いて法会を行いました。津村別院（北御堂）のはじまりです。江戸時代の大坂船場の二大建物といえば、津村（北御堂）と難波（南御堂）であり、二つの大きな屋根は偉容を誇っていました。大坂の商人や町人が、御堂の見えるところに家や店舗をもつのが理想といわれるほどでした。なお、(株)伊藤忠商事の創立者・伊藤忠兵衛（紅忠べんちゅう）は、行商から出発し、大坂本町に店舗を持つようになりましたが、彼は真宗の信仰に厚く、店員とともに毎日「正信偈和讃」をお勤めし、その後津村別院へ参詣するのが日課であったと言われています。そして、店舗にも西本願寺から僧侶を招き、法話会を催し、聴聞しました。彼は「商売は菩薩の業」と言って多くの人材を育て、商売を繁盛させました。

●何かサポート出来ないのか…

ご主人を亡くされた奥さまが、寂しい思いをなさっておられることを耳にします。奥さまを亡くされたご主人も同じかと思えます。今までご主人のおられた時は食事の準備もちゃんとしていたが、自分一人になるとおそろかに

なってしまうと言われます。また、来客や電話も掛かってこなかったら誰とも会話しない日が数日続くと気持ちがおかしくなる、ということです。お一人になられた方の会のようなものが出来れば…と考えたりします。何かいいアイデアありますか。お寺で何らかの会をしてもいいかなと思います…。

●住職の来年度の予定

今年4月からの私の予定ですが、龍谷大学（瀬田）に毎週金曜日に出講します。午前11時からの講義ですので、午前9時には家を出ないといけません。いままで通り前住職が出向きますので、宜しく願いいたします。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】

2月22日（土） 午後2時より午後4時頃（予定）まで

講師：西要寺住職

場所：西要寺会館（椅子席）

【念仏奉仕団】

3月18日（水）～19日（木）

場所：西本願寺

宿泊：聞法会館（西本願寺内）

◎どなた様でもご参加いただけます。

※定例法座はお休みです

【定例法座】

4月22日（水） 午後2時より午後4時頃（予定）まで

講師：那須 公昭 師（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

場所：西要寺会館（椅子席）

【永代経法要】

5月22日（金）～23日（土）

午後2時より午後4時頃（予定）まで

講師：谷川 弘顕 師（本願寺派布教使、神戸 高松寺 前住職）

場所：西要寺本堂（椅子席）